



# 東海大学大磯病院 医学豆知識

通 巻・ 第110号 ©  
発行日・ 2017年4月15日  
発行・東海大学医学部附属大磯病院  
発行責任者・病院長 島田 英雄

## 診察前検査項目の説明 (1)

分類	項目名称		説明	食事の影響	基準値		
					男性	女性	単位
生化学	TP	総蛋白	栄養状態の指標となり、肝臓の病気やネフローゼ症候群で低下します。		6.5~8.0		g/dl
	Alb	アルブミン	血液中の蛋白質の一種で、栄養状態や肝臓の働きを反映します。		3.9~4.8		g/dl
	CK	クレアチンキナーゼ	筋肉に含まれる酵素で、心筋梗塞や筋肉に炎症・破壊があると上昇します。		40~120	30~140	U/l
	GOT(AST)	グルタミン酸オキサロ酢酸トランスアミナーゼ	肝臓・心臓・筋肉などに含まれる酵素で、これらの病気で上昇します。		30以下		U/l
	GPT(ALT)	グルタミン酸ピルビン酸トランスアミナーゼ	肝臓に含まれる酵素で、肝臓の炎症で上昇します。		35以下		U/l
	LDH	乳酸脱水素酵素	肝臓・心臓・筋肉、血液などいろいろな臓器に含まれる酵素で、これら臓器の病気で上昇します。		110~210		U/l
	γ-GTP	ガンマグルタミントランスペプチダーゼ	肝細胞に含まれる酵素で、肝臓や胆のう(胆管)の病気の他、アルコール多飲で上昇します。		80以下	35以下	U/l
	ALP	アルカリフォスファターゼ	肝臓や骨、小腸や胎盤などに含まれる酵素で、これらの病気で高値になります。		100~310		U/l
	AMY	アミラーゼ	膵臓と耳下腺細胞に含まれる酵素で、膵炎や耳下腺炎などで上昇します。		40~126		U/l
	Cre	クレアチニン	腎機能を評価する検査で、腎臓の働きが悪くなると上昇します。		0.5~1.1	0.5~0.8	mg/dl
	UA	尿酸	痛風の原因になります。肥満や肉・ビール等の過剰摂取、および腎臓の働きが悪い場合に上昇します。		4.0~7.0	3.0~6.0	mg/dl
	UN	尿素窒素	腎機能を評価する検査で、腎機能障害の他、高蛋白食、脱水や消化管出血で上昇します。		8~20		mg/dl
	Glu	血糖	血中のグルコース濃度を表します。食後に上昇します。採取時の血糖値を示します。	↑	70~110		mg/dl
	TG	中性脂肪	糖質がエネルギー源として変化した物です。増加により動脈硬化を促進させます	↑	50~150		mg/dl
	T-Chol	総コレステロール	HDLコレステロールとLDLコレステロールの合算値を意味しています。増加により動脈硬化を促進します。		140~220		mg/dl
	HDL-コレステロール	高比重脂蛋白質コレステロール	動脈硬化を引き起こすコレステロールを回収して、肝臓まで運ぶ働きをします。いわゆる善玉コレステロールです。		40~100		mg/dl
	LDL-コレステロール	低比重脂蛋白質コレステロール	肝臓のコレステロールを体の隅々に運んでいます。悪玉コレステロールとされています。		140以下		mg/dl
	Na	ナトリウム	水バランスの維持など、体内循環を安定させる働きがあります。		136~145		mEq/l
	K	カリウム	柑橘類(みかん)やバナナ、緑黄色野菜に多く含まれています。腎障害などで上昇します。		3.5~4.8		mEq/l
	Cl	クロール	酸・塩基平衡や水バランスなどに関わっています。		98~108		mEq/l
	Ca	カルシウム	骨に関わる電解質です。筋肉や神経の働きの維持にも関わってきます。		8.6~10.0		mg/dl
	P	無機リン	細胞膜や核酸、Caと同様に骨ミネラルの重要な構成成分です。		2.5~4.5		mg/dl
	T-Bil	総ビリルビン	増加すると黄疸の基になる物質です。肝臓や胆のう(胆管)、血液の病気で上昇します。		0.2~1.1		mg/dl
	CRP	C反応性蛋白	肝臓でつくられる蛋白質で細菌感染や関節リウマチなどの炎症で上昇します。		0.3以下		mg/dl
BNP	脳性ナトリウム利尿ペプチド	主に心臓(心室)から分泌され、心疾患により高値になります。		18.4以下		pg/dl	
トロポニンI	心筋トロポニン	心筋構成成分なので、急性心筋梗塞・狭心症、心筋炎などで高値になります。		0.09以下		ng/ml	
HbA1c	ヘモグロビンA1c	過去1~2か月の血糖値に比例して増減します。糖尿病の診断や血糖コントロールの指標になります。		4.6~6.2		%	
赤沈	赤血球沈降速度	細菌感染や関節リウマチなどの炎症で亢進します。		1~11	1~20	%	

裏面あり

## 診察前検査項目の説明 (2)

分類	項目名称		説明	食事の影響	基準値		
					男性	女性	単位
免疫	HBsAg	HBs抗原	ウイルス表面の蛋白で陽性はウイルスが体内に存在し、B型肝炎に罹っていることを意味します。		5.0未満 5.0以上	陰性 陽性	mIU/ml
	TP	梅毒TP抗体	梅毒にかかっているかどうかを調べる検査です。		1.0未満 1.0以上	陰性 陽性	
	HCVAbs	HCV抗体	C型肝炎ウイルスに対して産生される抗体です。陽性判定の場合、C型肝炎である可能性があります。		1.0未満 1.0以上	陰性 陽性	COI
	TSH	甲状腺刺激ホルモン			0.523～4.190		μIU/ml
	Free T3	遊離トリイオドサイロニン	甲状腺の機能評価に用いられます。TSHは甲状腺を刺激し、甲状腺ホルモン(T3、T4)を分泌させます。T3・T4は体全体に作用して代謝を活発にします。		2.47～4.34		pg/ml
	Free T4	遊離サイロキシン			0.97～1.79		ng/ml
末梢血	WBC	白血球	血液に含まれる白血球数で、炎症や細菌感染などで増加します。		4.0～8.0		$\times 10^3 / \mu\text{l}$
	RBC	赤血球	血液に含まれる赤血球数で多すぎれば多血症が、少なければ貧血が疑われます。		4.10～5.30	3.80～4.80	$\times 10^6 / \mu\text{l}$
	Hb	血色素量	赤血球の中にあり、酸素を結合して運搬します。貧血治療の指標となります。		13.5～17.5	11.5～15.5	g/dl
	Ht	ヘマトクリット	血液全体に占める赤血球の割合を示します。		40.0～48.0	34.0～42.0	%
	MCV	平均赤血球容積	赤血球1個あたりの容積の平均値を表します。		84.0～99.0		fl
	PLT	血小板数	止血作用を有する血液成分です。減少すると出血しやすくなります。		14.0～40.0		$\times 10^4 / \mu\text{l}$
凝固機能	PT	プロトロンビン時間	血液の固まりやすさを調べる検査です。肝臓の働きやワルファリン治療の指標になります。		10.7～14.0		sec(秒)
	INR	PT-国際標準比			0.80～1.20		比
	APTT	トロンボプラスチン時間	PT同様、血液の固まりやすさを調べる検査です。抗凝固療法の指標となります。		24～40		sec(秒)
	AtⅢ	アンチトロンビンⅢ	肝臓の働きを反映し、静脈血栓症などで低下します。		73～110		%
	Fib	フィブリノーゲン	炎症などで増加します。		200～400		mg/dl
	FDP	フィブリン分解産物	血管内にできた血の塊(血栓)が溶けたもので、血管内の血栓量を反映します。		5以下		μg/dl
	DD	Dダイマー			1以下		μg/dl
定性検査	便潜血		消化管に病変があり、出血していると陽性になります。		(-)	(-)	
	尿蛋白		激しい運動や入浴後、発熱時などでも出現します。持続性の尿蛋白は、腎臓の病気で見られます。		(-)	(-)	
	尿潜血		腎臓の病気や尿路結石、膀胱炎などで出現します。		(-)	(-)	
	尿糖		血糖値が高いと出現します。		(-)	(-)	
	白血球		腎臓・膀胱の病気や尿路結石などで出現します。		(-)	(-)	
	ケトン体		下痢・嘔吐、激しい運動後や妊娠悪阻(つわり)などで出現します。		(-)	(-)	
	亜硝酸塩		尿路の細菌感染などで出現します。		(-)	(-)	

※年齢(小児等)により基準値が異なる場合があります  
※測定方法および測定機器により基準値が異なる場合があります